

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		運動療育型児童デイサービスパークキッズ木津川校		公表日	令和6年 9月 16日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		児童福祉法の運営基準に満たしている	引き続き、一人ひとり安全に過ごせるよう環境を整える
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		京都府の人員配置基準を1～2名多く満たしている	現状の人員配置を継続していく
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		建築基準法と京都まちづくり条例の基準は満たしているがトイレ入口の段差トイレ内の狭さは介助が必要。	トイレの使いづらさの改善に努める
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		空気清浄機の設置、空調整備や換気、ドアノブや机の消毒など感染防止に努め、快適に過ごせるような空間づくりを実施している	今後日々の清掃、換気、消毒等を徹底し誰もが快適に過ごせる環境づくりを促進していく
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		個別の部屋の確保は難しいが一人分の机を確保して支援内容に応じしている	今後も支援に応じてスペースの確保に努める
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		毎日、報告会議にて振り返りや改善点など職員間で熟考し、会議に参加できなかった職員への伝達に努め今後の支援のあり方を共有している	毎日のミーティングをはじめ、職員間で支援の方向性を共有し日々改善に努める
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		昨年度の自己評価表を事業所入り口に設置し、常に閲覧できる体制を整えている。LINEにて保護者の意向を把握し業務改善に繋げられようとする	より多くの保護者の意向を把握し、当事業所の長所短所を汲み取れるよう努力します
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		半年に一度の面談を実施し、職員の意見を反映できるように努めている	積極的に職員の内外部研修等に参加しやすような環境を整え、職員の質の向上に努める
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	現状では第三者による外部評価の設置はなし	必要があれば外部評価の検討をする
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		資格取得費用の負担を行い、支援技術や知識の資質向上を行っている	費用負担の継続、OJTの強化
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		療育のプログラムの見直しや、イベント企画会議を行っている	改善点のより良いプログラムの立案を強化し、保護者にわかりやすく公表できるよう努力する
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		アセスメントシートをもとに日々の送迎時や面談にて相互の情報交換の中で活動や支援に生かして計画書の作成を行っている	引き続き実施する
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		ケース会議を通じ、個々のモニタリングを行い、意見交換や支援の修正などを話し合っています	相談支援員との連携内容も考慮に入れながら、職員が意見を交換し支援の方向性についての共通理解を図る
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		個々の支援方法の目標や計画を確認し、計画に沿った支援を行っている	今後も職員一人ひとりが全体の状況を把握し個別支援計画に沿った適切な支援が行えるようにする
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		日々の行動観察に基づき確認できるようなアセスメントが実施できている	更にケース会議等で職員間で検討していく
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		「本人支援」の充実と「家族支援」を視野に支援内容の充実を図る	さらに、相談支援員の協力を得て「移行支援」「地域支援・地域連携」を指標に入れて個別支援計画に反映できるよう検討する
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		職員一体となって新しいアイデアの提案、試み、振り返りを行い、子どもの反応を見ている	職員の数だけ意見やアイデアを生み出すことを忘れずに日々チームワークを高めている
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		イベント内容を工夫し、適切な教材や活動内容を見極め、できるだけ子供の興味を引き出し楽しめるよう発案する	苦手な課題やイベントにも消極的にならないようなイメージを与えないよう創意工夫する
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		こだわらにとらわれず集団活動に沿っていけるような支援を目標に集団活動を多く取り入れている	子どもの状況に合わせて個別活動も組み合わせしていくことも検討している
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		一日の流れを確認するミーティングにて支援内容や活動の役割分担等を確認し、支援が円滑に進むようにしている	引き続き、実施する

	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		その日の良かったことや問題点をフィードバックし、次から円滑に進むよう情報を提供している	引き続き、実施する
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		保護者向けに連絡帳と事業所の記録としてケース記録を作成し、それらを参考に評価改善など支援の質の向上に努めている	今後も正確な記録を残し、支援の質の向上につなげる
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		6か月ごとにモニタリングを行い、見直しを図っている	引き続き実施する
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	○		「4つの基本活動」を意識し、保護者への意見に耳を傾け、支援を進めている	「4つの基本活動」に偏りがあるので、(特に地域交流の機会の提供)補填できるよう検討していく
	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		子どもが自ら考えて行動できるような声掛けを常に心がけている	子どものその日の様子(学校や家庭との情報共有)をケース会議にかけ支援に活用できる体制を整える
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		必要があれば相談支援員に連携を取り、児童発達支援管理責任者と担当職員が対応する体制を整えている	小学校の就学等の時期には特別に支援を必要とする子どもを対象者をピックアップして関係者会議の体制を整える
	27	地域の保健、医療(主治医や協力医療機関等)、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		必要があれば体制は取るが今のところ対象者はいない	必要に応じて検討していく
	28	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか。	○		LINEにて保護者と情報共有を図っている	引き続き実施する
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		今のところ通所児の中で就学での移行で連携の機会はないが、今後機会があれば積極的に参加できるよう保護者や相談支援員との情報共有をしていく	保護者に就学に向けて不安がないか聞き、共に考えていく姿勢を見せる
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		個別面談にて当事業所の代表を中心に保護者への不安や悩みに対し、障害福祉サービスへの移行についてアドバイスや助言を行っている	引き続き実施する
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		機会があればお願いしたいと思っている	他児童の連携の際に電話等でもアドバイスの対応できるよう協力をお願いする
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		今のところ交流や活動の機会はない	必要に応じて検討していく
	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	○		機会があれば児童発達支援管理責任者を中心に参加したい	必要に応じて対応する
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		送迎時や面談、通所時の送迎などで子どもの発達や課題の共通理解を持っている	具体的な改善策などを提案していく
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		ペアトレーニング研修などは行っていない	保護者からの要望に応じて機会があれば検討していく
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時に説明している	延長支援などの法改正に伴う説明を引き続き実施する
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		個別面談等にて保護者の意向を確認している	引き続き実施する
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		利用時及び家族に意向やニーズに応じた支援目標や計画の具体的説明を行っている	引き続き実施する
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		個別面談や送迎時等にて悩みに対する助言を行っている	子どもの特性に考慮しながら丁寧に説明していく
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	○		形式的な父母の会や保護者会はないがスーパーキッズフェスタを通じて保護者間の交流を深めていける企画を検討していく	必要としていない保護者のいるので慎重に対応していく
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		苦情には解決まで迅速に、相談や申し入れに対しては保護者の思いに寄り添いながら慎重に対応している	引き続き実施する
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		毎月10日に「スーパーキッズ通信」をラインで発信してイベント内容や連絡体制等の情報を提供している	引き続き実施する
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		動画撮影に関しては契約時に同意書を得ている	引き続き実施する

	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		相談支援員との連携で事業所内で不十分なところは補えている	相談支援員との連携内容も考慮に入れながら、ケース会議を充実させる
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		南陽高校のマジック部との交流を筆頭に開かれた事業所を目指している	たくさんの地域交流の場を増やしていけるような体制を整える
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		LINEにて各種マニュアルの告知をしました	引き続き実施する
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		地震、火事、水害、不審者対応の訓練活動を行いました	今回の保護者評価集計シートの結果により周知できていないので周知徹底を強化する
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		契約時に保護者からの申し出や調査票により、要観察児童の事業所内で対応に遭遇した時の書類を作成している	引き続き実施する
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		事務所の冷蔵庫前に掲示して常に確認できる体制を整えており、更にクッキングのイベントにて食物アレルギー児を把握している	アレルギー表の更新を徹底する
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		今年度は具体的に研修や訓練の機会は実施されていない	職員に安全に対する意識が高まるよう安全管理に必要な研修の機会を増やしていく
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		安全計画に基づく取り組みは作成済だが、周知徹底出来ていないので理解を得られるよう努力する	より保護者に安全確保に基づく内容をわかりやすく告知していけるよう検討していく
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		その都度すぐに共有し安全面に配慮するようになっている	引き続き実施する
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		会議やミーティングにて対応などの指導を行い、常に虐待防止の意識を高めている	全国などで起きている前例など実際の現場で起きている事例に挙げて研修している
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		保護者と身体拘束の同意を得たうえで必要に応じて対応している	個別支援計画書に必ず身体拘束する方は記載しておく